

昭和31年6月18日第3種郵便物認可  
毎月1回1日発行  
定価1部15円  
印刷所 田辺印刷株式会社  
上田市原町 TEL (2) 1492・2566

# 千曲会報

編集兼発行人 小林 尚一  
発行所 社団法人千曲会  
長野県上田市常入信州大学繊維学部内  
振替長野 6243・東京43341  
電話上田(2)1215(代表)(2)1218(直通)

## 信州大学一般教養部の設置と繊維学部の参加について

信州大学繊維学部長 小 泉 清 明

### はじめに

繊維学部は大学発足以来一般教育課程は自学部で行ってきたし、大学評議会にはいくたびか教養統合の議題がでたが、その都度猛反対の態度を固執してきた。しかるに本年6月7日の教官会議はこの方針をくつがえして、来年の概算で設置を要求する信州大学の一般教養部に参加する態度を決定し、これは同9日の評議会で承認された。何故にこうなったか。事の是非は将来の歴史の判定にまっ外ないと思うが、いろいろな事情があった。早急に解決せねばならぬ問題であり、同窓各位にもろくに報告もできなかった。私は学部の責任者として委曲を最もよく知っているもので、いままでのいきさつ経過を詳しく書いて将来の記録として残しておきたいし、あわせて千曲会、教職員の各位、学生諸君にも事情をよく了解していただきたいと思う。

### 38年の教養統合問題

信州大学の一般教育は大学創立以来今日まで松本の文理学部、長野の教育学部ならびに上田の繊維学部の3ヶ所にわかれて行ってきた。これを一ヶ所に統合して「一般教養部」をつくりたいという意向は歴代学長のひとしく念願したところで、ほとんど毎年評議会の議にのぼり、真剣な検討を重ねられたが、各学部の複雑な事情のために実を結ばず今日にいたった。ところが昭和38年1月この問題は急に今までにない緊迫性をもって再登場した。その直接の動機となったものは文部省の管理局施設部がその前年10月に国立大学建物施設の長期整備計画をたてたことにある。昭和38年を起点とし、10ヶ年を期間とするこの計画において、第1期、第2期の初期に手をつけるものは大学基準に照して不足する建物の充足、老朽建築の改築を主とし、このほかに大学の改組拡充に伴うもので学内の意見が統一されて大学評議会で議決されたものに限り計画に加える。施設部は信大に対しては昭和26～27年大学設置審議会第九特別委員会の勧告の線にそって、一般教育は松本地区一本に統合すべきこと、教育学部の松本分校は長野本校に合併すべきことの二つの基本線を前提として、一般及び専門教育施設の長期将来計画を樹立せよと要請した。この基本線が確認されない時は信大全学の施設計画は初期計画の中に盛り込むことはできない。繊維学部に対しても、この計画がうけ入れられない時は、焼失建物の再建も老朽建物の改築も認めない。文部省の背後にある大蔵省主計局も全く同様な意向であった。

信大の各学部および大学評議会は問題の重要性にかんがみて、従来になく真剣な討議を重ねたが、結局、文部省に対する回答の期限である7月上旬の評議会において、学部間の意見の統一ができないという理由で、一般教育についての施設計画はこれを保留し、専門教育のみの将来計画を提出するこ

とに落ちついた。ただし一般教育の統合については継続審議することが確認された。元来この問題の提出のしかたには無理があり、施設を教育の基本方針に先行させることには、同じく文部省内にも異議あり、とくに大学学術局はかなり批判的であった。

施設部の長期整備計画は結局かけ声だけに終わってしまったようである。しかし本学部の焼失旧本館の再建（620坪が本年3月末竣工）老朽建物の改築（紡織工学科研究室682坪が本年9月着工の予定）は学部の教養統合不参加の態勢のため交渉が殊の外難航したことは事実である。

### 40年度の信大将来計画

教養統合問題は39年秋、以前とは比較にならない緊迫性をもって再燃した。その根源はいわゆる大学入学志願者激増の現象の中にある。戦後のベビーブームの波は40年度から大学に押しよせる。文部省は志願者数の推定、対策などにやっきとなったが、一方大蔵省、業、財界、私大側などの批判や抵抗もあって計画も年ごとに変わる状況であったが、本年1月うちだされた計画は国立大学については、41～43年の3年間に9,000～13,000名の入学者を増募したい。このうち60%は理工系、40%は文科系にわけてある。これをどのような方法で達成するか。容易ならぬ問題である。すでに32年頃から理工系大学は学部学科の増設を初め今は限度近くに来ている。

各種の対策手段が考えられるわけであるが、信州大学に関連した事項の中で問題をとりあげてみると

#### ①文理学部の改組拡充

同学部は学制改革のさい、一般教育担当の責任学部として出発したが、以後学部のありようにあいまいな点あり、いわゆる理工系大学のブームの波にものれず、長い間おいてけぼりの悲況をかこってきた。このような文理学部をもつ大学が全国に14ある。そこでこの際これを大幅に拡充して入学者激増対策の有力な一環としたい。この趣旨に基づいて本年度は弘前、埼玉、静岡、鹿児島、鹿嶋の文理学部が解体されてそれぞれ2～3の新学部を創設し、大幅な学生募集を行った。信大文理学部はこれを理理学部と人文学部に分裂拡充したいという案が評議会その他の公認の形で練られてきた。

#### ②教育学部本分校の合併

今後数年間に児童生徒数が大幅に減るため、政府は昨年、実情に見合せて全国数個の教育学部に学生入学定員を減らすよう提示した。信大では定員の約半を減らす。松本分校の定員は130名ではほぼ削減数と見合う関係もあり、またこれは当然教官定員減にも結びつくので、分校存廃問題は急にクローズアップしてきた。松本分校は中南信義務教育の拠点でもあり、廃止には深刻な反対論も予想されるが、信大全体の立場にたつと懸案の一般教育

統合、文理の拡充に整理定員を振り向けることができれば、両者とも一石二鳥の策ではないかという考え方もできた。

### ③一般教育の統合

従来大学の一般教育はたて割り式（専門教育とクサビ型に交錯させて行う）よこ割り式（入学当初の1～2年で全部すます）、学部単位で行う、一ヶ所に集合し大学一本で行う場合などさまざまであったが、文部省は3～4年前から専門学部と完全に対等な地位にある法制化された一般教養部（東大には教養学部という名前前で大学出発当時から存在している）を設立するよう国立大学にしようようしてきた。これは国立大学協会（国大協、学長から結成される）が、一般教育は大学として一本に統合したよこ割り式が実情に適しているという見解を発表したことに基礎をおいている。文部省大学課長の直話によると一般教育の性格のあいまい化、その中でも専門課程からの影響が強くそれへの準備課程に化している。教官の劣等感、学生の勉学意識の低下など、人間形成という最終理念からはおよそかけ離れた存在になっているので、この際、可及的専門課程から独立した純粋な一般教養部をつくるのが望ましいと。しかしこのような主張の背後には教育も施設も節約できるという国の財政節約という意図が歴然ととしている。いわば一般教育の軽視である。このことは本年3月末大学設置基準等研究協議会が文部大臣あてに提出した一般教育の人文、社会、自然系列において履修すべき36単位はこれを12単位減少して専門あるいは基礎教育にまわすことができるという答申に基づいて、政府がこれを42年度から実施するという意向と規を一にしている。

これ以外にも教養部の設置はいまでは国立大学のみでなく公私立大学でも一つの大きな流れとなって来た。文理学部の改組にあたっては教養部は必置条件であり、本年改組をすました4大学も、また残った10大学も何れもその計画の中にこれをくりこんでいる。信州大学もまたこの大きな流れのらち外ではあり得ないのである。

### 信 大 の 評 議

信大では上述の3計画が入学者激増処理の国策であり、文部省からも強力な働きかけもある事情にかんがみ、昨秋の評議会で、その中に信州大学将来計画案作成委員会を結成し、以前とは異なる前向きの姿勢で検討を初めた。この委員会も各学部、とくに文理、教育、繊維の複雑な事情で討議も一進一退の状態であったが、遂に本年4月1日の評議会において文理学部を解体して人文学部、理学部の2学部を新設する。教育学部松本分校を廃止して教育学部は長野に統一する。松本地区に信州大学一般教養部を設置する。

という将来計画案が承認された。これらは三位一体、たがいにきり離すことのできない総合計画として、確認された。ただし繊維学部は3件に異存はないが一般教育部には現時点においては参加しないという学部意志を表明して、これが了承された。しかし将来繊維学部から参加の申入れがある場合は評議会は喜んでこれを迎えるということも附帯決議された。

同日直ちに一般教養部、理学部、人文学部それぞれの設立準備委員会と、設置に必要な具体的資料を整備するための調査部会が結成され、6月下旬までに文部省に提出する昭和41年度概算要求書作成のための具体案が練られることになった。

評議会および各種委員会へ当学部は教養統合には参加せ

ず、他の5学部で結成するという建前で、それぞれの審議を進めたが、後述するような繊維学部の離脱が6月9日の評議会承認された結果、その後は6学部案となって審議が進められている。

後述するように信大将来計画3案は6月7日学長の文部省折衝の結果かなりの無理があることがわかり、必ずしも楽観は許さないが、ともかく6月下旬に提出する概算要求に間に合うよう成案をうる姿勢で準備が進められているわけである。

### 織 維 学 部 の 態 度

繊維学部は信大の一般教養の統合には終始猛烈に反対してきた。この問題が評議会に上程されると席をけたくて退出した学部長もあったという。理由にはきわめて根っこの深いものがある。

第一に当学部に教課程をおくことは一種の法的根拠に基づくことである。昭和24年5月16日の大学設置委員会からの文部大臣あての答申、同17日の衆議院文部委員会における文部大臣の言明、同19日の衆議院における国立学校設置法案の可決などによって「上田繊維専門学校は信州大学に併合すべきこと、ただしその特殊性を認めて、実情に応じて一般教育課程は上田において行うことを妨げない」という決定がなされた。これは法律ではないが、それに準ずる措置として今までその効力を持続している。

第二はいわゆる単科問題である。24年学制改革のさい、当学部は激しい単科独立運動を展開した。これは最終的にはGHQの一県一大学制の考え方に阻まれて許可にはならなかったが、爾来単科概念は学内、同窓会はもちろん文部省、信大その他一般世間の濃厚な潜在意識として残存してきた。教養を保有することはいつか単科に独立する必須の条件ではないか。これを手離すことはもはや単科を永久に断念することにつながるのではないかという考えである。

39年度学部は教官会議や特別に設置した委員会で教養統合について実に数十回にも及ぶ真剣な討議を重ねた。もちろん単科問題や文部大臣の俗称「おすみつき」の如きは棚にあげて、純客観的純粋な立場で問題にとりくんだ。その結果全教官の一致した意見は、予想される教養部がいろいろな点で現在当学部で行っている教養よりもベターのものであれば、当学部も統合に参加するに吝かではないということであった。しかしこのベターであるか否かの見解については教官の意見は一致しなかった。反対論としては、教育がマズフロになる。1年では予備校化の懸念が強い（教養部では医学部の2年を除いて他の学部は最初の1年だけ従来と一緒に教育をうける）。優秀な教官が集まるか、学生運動の果くっにならぬか、履修単位1単位でもおとしたものの救済方法、画一教育への疑問などの意見が述べられた。賛成論としては専門を異にする各学部の学生が互いに接触することによってあらゆる方面への視野を拡大することができる。学部はあまりに狭い領域にたてこもりすぎはしないか。教養統合は国の強力な政策であり。日本の大学を流れる大きな風潮ではないか。今はベターでなくても皆が協力すれば将来は必ずよいものになるし、またそうあるべきである。信大のたこ足解消と総合化については教養統合をその足掛りとしようではないか。

本年になってから私は教養統合について一昨年ほど執ように審議を要請しなかった。理由は賛成派、反対派の対立がますます激化する情勢を恐れた以外のなものでもない。

評議会では4月1日の会議において将来計画案の結論を出すことになったので、学部では3月31日10時間に及ぶ長時間の討議の末、投票によって決定する以外に方法のないことが確認され、票決に附した所、極めて極少の差をもって、教養

統合には参加しないという結論に到達した。賛成派も民主主義のルールによつたこの決定に異存はなかった。その翌日の評議会の模様は前述した通りだが、学部では直ちに、学部将来計画委員会において不参加の線による今後の措置について研究を初めた。教養部は大学一本で松本にできる。この中で学部の教養はどのように位置づけられるか。またどのような取扱いを望むか。この点の論議は実は教官会議ではあまり検討されず、漠然と今まで通りの方法が踏襲されると信じていた人が多かったようだ。しかし教養の運営、教官の身分、学生の取扱いその他各般の事項は教養部長の管轄下で行われるし、教授会にも松本までその都度出席せねばならぬ。繊維学部長は果して大幅に権限を委譲された分室長として認められるか。

5月6日開かれた。教養委で吉田信大新事務局長は来年度の概算要求に関する文部省の基本的な考え方を紹介したが、このなかに文理改組と教養設置は「すっきりして納得のできる形で案ができたものから逐次とりあげる」という事項があった。繊維学部が参加しなければ信大の教養部はすっきりした形にならぬことは言うまでもない。事実とすれば、三位一体の計画が見送られる。これは繊維の責任にはならないか。5月18日大学本部で学部長羽島、田口両評議員、野口将来計画委員長は今後の方策について学長、局学と長時間懇談したが、万止むを得ざれば、教養には参加という形をとり、運営面で考慮する外に方法はないであろう。しかしすっきりした線は文部省は強硬に固執することに間違いない。

5月27日私は羽島評議員、野口将来計画委員長とともに文部省に出頭、大学課長ほか、2、3の係官に面会、学部がいままで一般教育を専門教育と同じ比重で丁寧に扱ってきた事情、統合によるマスプロ教育の弊、予想される統合に対する他学部の熱意の欠除、全国の大学が教養を軽視している事情などを説明し、これらに対する文部省の考え方をたずねた。課長は繊維学部が一般教育を非常にだいたいしている事情をよく知っているが、この際信大の立場にたつて教養統合に参加し、従来の経験を生かしてこれを育成してもらえないか。文理や教養の計画に対してはあくまで態勢のしっかり固まったものをとりあげる。文部省のこれに対する態度はシベリアである。

諸般の情勢は学部にとって有利でないことが漸次明らかになった。5月28日の教官会議はついに3月31日の不参加の決定線にもかかわらず。この問題は再検討することを決定せざるをえない羽目になった。延々8時間に及ぶ会議において、文部省の圧力によって教官会議の結論をくつがえすことは大学自治の精神に反するものではないか。現在の客観状況はよく認識せねばならぬ。3月末の会議における認識と見直しはあますぎなかったかなどの議論あり、票決の結果は大差をもって再審議すべしという結論に到達した。

5月31日再審議の教官会議、やはり活発な議論が展開されたが、議長である私には、すでに賛成反対は各自の固定概念となっていて、表明される意見は空疎のものに感じられた。6時間半の後、学長と局長を学部へ招致して懇談会を開くことに落ちついた。

6月5日、三村学長と吉田事務局長と教官有志との懇談会。吉田局長(早大文科出身)は文部省に永年勤務の後、静岡、富山、電通各大学の局長として手腕をふるった人。大達文相と喧嘩して本省を飛び出したという硬骨漢でもある。彼の説くところによると、教養統合は日本の全大学のすう勢である。東京農工大、京都工繊大などの2学部よりなる大学でもまた東京工大、一つ橋大等の単科大学においてさえ共同してこれを行う具体案が練られている。教養を軽視するわけでは

ないが、学問の異常な進歩は教育をいつまでも教養にこだわることを許さない。教養は共同でやって専門課程を強化充実してゆくことが、この頃の大学の進むべき道ではないか。この意味で、いま日本の単科大学は将来に大きな不安を抱えている。学問の異常な進展を単科大学が果して処理できるか。電通大の加きもトンツの技術大学として発足したが、最近の宇宙通信その他のめまぐるしい開発には、単科大学の機構では、とうていついてゆけない。勢い他の大学と合併するか、思い切って大幅に基礎科学を取り入れる外に方法はない。局長の熱のこもった談話は示唆に富むものであった。

6月7日教官会議、各自の意識の中に本日は最終決定がなされるだろうという明らかな期待があり、会議は初めからきわめて重苦しい空気に包まれた。発言するものなし。私は何回も討論を誘導したが、議論はふつと止まらなかった。ついに投票が唯一の手段であることがわかった。賛成反対の差は思った通り僅少で、学部が真二つに割れていることを物語ったが、その差は3月31日の時よりはいくらか大きく開いた。白票も多かった。結論は教養統合参加に踏切ることである。

新聞の報道や論説が世論であるならば、繊維学部のこの願意は社会からは大きな好感をもって迎えられる。たこの足信大はこれでようやく近代大学へのスタートがきれるというのだ。しかし同時に繊維学部の複雑な事情も理解され、今後文部省や大学本部は学部の将来について、考慮を払うべきであることもつけ加えられた。

学部は早速教養統合委員会をつくって、参加にともなう具体案を練ることになった。

### 学 生 の 動 向

38年学生側は教養統合を強く希望した。各学部自治会の連合体である自連合は、評議会の議が容易にまともでないことに業をにやし6月26日授業放棄を計画した。計画は一部の学部を除いて、全学的に決行され、当学部も参加した。さらに7月4日第2波が計画されたが、これは繊維学部の猛反対で実現しなかった。

本年度の統合問題については他の5学部は早くから賛成の線をだしていたので自連合としての動きはみえないようであるが、繊維学部の自治会は強硬であった。数回学生総会を召集して学部の参加を強く希望した。彼等のいうところは現在の分立状態の教養はきわめて弱体であり、学部のそれにも甚しい不満ある。専門が異なる全学の学生が共通の話しあいの場をもって広い視野の人間をつくるのが、現代の人間形成の目標であるし、将来社会に出た時、他大学の卒業生と比肩して活躍できる素地になるのではないか。

意見はきわめて強烈で、自治会幹部の見えない圧迫も否定できないように思うが、400名以上に及ぶ署名も届けてきた。いうことが一方的観念的である。たとえば統合さえすれば今よりもベターの教養ができると思い込んでいる。これは明らかに独断である。事実われわれの調べでこの点に大きな疑問がある。しかしわれわれは、少くとも私自身は、彼等のいうところ、すなわち広いフィールド、刺激のある環境での勉強はともすればせまくりかたまりがちの学部での勉強よりも教育効果の上で、また人間形成の目標のためにも、効果的本質的ではないかと考える。老人にはいまの若者たちの気持ちには飛躍的ですがすぐにはのみこめないが、静かに考えてみると彼等の云うことがむしろ正しいと思うことが再々ある。統合教育がよいものになるためには、教官ももちろんだが、とくに学生一人一人の自覚が最大の条件になるのではないかと私は思う。

### 信州大学繊維学部一般教養課程統合決定についての経過報告

社団法人千曲会理事 山口定次郎

母校繊維学部は両三年来「信州大学一般教養課程松本一ヶ所に統合」の可否について慎重に討議を続けましたが、賛否両論があつて容易に方向は決定することができませんでした。

一方千曲会は昨秋の総会において上小支会より提案の緊急動議にもとづき「繊維学部の教養課程を統合されることは、母校の教育面において大いに支障あること、また大学発足当時の歴史的事実を無視するものであることをおもな理由として統合反対」の決議を行ない、千曲会の意志を表明した次第であります。

なお、この決議の実行については理事会に一任されたので、理事会は学部の立場を考慮しつつ慎重に行動いたしました。

母校はさらにいくたびか審議を継続いたしました結果、3月31日に「現時点においては教養統合に不参加」ということに、票法により決定いたし、一応千曲会の目的は達せられたかにみえましたが、その票差は一票でありました。その後5

月末にいたり、信州大学および文部省などの「新事態」とも称すべき事由が判明いたし、信州大学全体ならびに繊維学部自体の発展のためにも、先の決定は急遽再検討を必要とするという事情に立ちいたり、学部は慎重に、検討を重ねましたが、6月7日教官会議において最終的票法をいたしましたところ、今回は方向は逆転して「教養統合参加」ということになりました。事情の詳細については学部長の本誌掲載報告のとおりであります。

従いまして誠に遺憾ながら昨秋の千曲会総会の決議は、われわれの微力をもってしては、その目的を達成するあたわず特に学内にある理事一同は誠に面目もなく、その責任を痛感しているところであります。諸般の事情ご賢察の上、会員各位のご諒承をえられれば望外の幸であります。

以上繊維学部が「信州大学教養部参加」にいたる経過の概要を申し述べて報告といたして併せてご諒恕を乞ひたいと存じます。

### スモールスケインの製造方法に関する研究

#### 第11回貞明皇后記念蚕糸技術賞受賞者

神楽生糸KK常務取締役 塩田健介 (糸川)

昭和31年4月製糸工程の合理化と機業場に於ける準備工程を省略で完全原糸の製造方法により生糸の付加価値を増加する目的で研究に着手した。昭和34年2月に神楽生糸綾部工場に生産設備を行ない生産を開始、昭和35年には綾部工場自動線糸機2セットを改装、昭和40年には神楽生糸の全生産量を月四五〇俵をスモールスケイン製造設備を改装することになって居る。当初の販売価格は生糸標準糸価のキロ100円高であったが、40年4月からキロ150円高で販売して居る。

#### スモールスケインの特長と効果

従来の生糸は周囲1.5Mの長手紐を捻造り更に括に作り60kgを1つのロットして居るが、スモールスケインは周囲0.41Mの紐に作りそのまま包装して60kgをパンキングケースに詰めて20kgを1つのロットして婦女子に取扱容易なスタイルに出来て居る。さらに機業に於ては従来種々なる製織準備工程を必要としたが、スモールスケインを使用することによりこれらの準備工程を省略出来る結果準備工程に要した人件費、資材設備費、設備場所等に大巾な経費の節減と投入原糸の減少する利益がある。参考に織物別準備工程の大略を示せば

#### 織物別準備工程一覽表

後染織物の場合「省略出来る」準備工程を示す。

経糸 A型「糸繰→合糸糊付→乾燥→繰返」→整経  
B型「認糊付→乾燥→糸繰→整経

緯糸 A型「ソーキング→乾燥→糸繰→合糸→緯煮」下管巻  
B型「ソーキング→乾燥→糸繰→水漬」合糸管巻

先染織物の場合「省略出来る準備工程」

「ソーキング→乾燥→糸繰」→合糸→機糸→精練染色

#### スモールスケインの製造法

繰糸機の小枠直前に於てオリリングを行う(神楽特許所有)繰糸した糸枠を直接機業者の注文により合糸サイジングを行う。従来の繰糸方法と異なる点なく、巻取速度、能率、糸歩品位に影響を与えない。

#### オリリングに就いて

繰糸巻取速度を勘案しカチオン系又はアニオン系のオリリング剤を用途別に使用する。付着量は生糸量に対し1%を基準に均一なオリリングをする。

#### 合糸・サイジング

合糸は機業者の要求する本数を合糸サイジングを行う。その場合繰糸小枠湿さず、そのまま直接合糸サイジングの連続操作により枠手伸縮装置付周囲0.41Mの金属性小枠に巻取り、(神楽特許所有)スケインとする。

サイジングは複数糸条の結着を与えケバ立を防止し繰返テンションの調整のために行う均一な付着を施設をなし生糸量に対し1%を基準とする。機業者から量目に対し苦情を聞かないのは従来の投入生糸量に対し繰上量が遜色ないからである。

#### スモールスケインの仕上げ

枠手伸縮装置のある枠から外したスケインの上下の糸緒を紙テープにて糊付し絡留とする(重量330g)これを底なし紙袋で包装し二つ折りにタタミ60総毎パッキングケースに詰めてシールチャンクする。1ロットの重量20kg。

### 「楓 荘」 利 用 案 内

楓荘所在地長野県北佐久郡御代田町楓ヶ丘別荘第120号

千曲会員および関係者の楓荘ご利用をお待ちいたします。

- 1, 利用設備は宿泊4名、日帰の場合10名。
- 2, 利用申込は千曲会事務局。
- 3, 利用料は1泊1名200円, 2人400円, 3人500円, 4人600円。
- 4, 日帰り休憩料は5人まで1人100円, 6人以上は1人70円。
- 5, 1泊は午後から翌日午前中。日帰りは午前9時から午後5時まで。
- 6, 施設利用申込みはまずあいているかどうか、文書か電話で千曲会に問い合わせて下さい。ご利用出来るときまれば

- 7, 申込書に料金を添えて千曲会事務局に提出して下さい。
- 8, 利用者には利用券を渡しますから、これを管理人楓ヶ丘中央ストアに渡して鍵を受取して下さい。
- 9, 利用期間は7日以上にわたるときは再申込して下さい。
- 10, 利用者はずべてセルフサービスです火気に充分注意して下さい。利用後掃除をして戸締を適確にして鍵を管理人に渡して下さい。
- 11, 備品等き損したときは弁償して下さい。
- 12, 楓荘にアンケート用紙がありますから施設改善の資料としますから感想をどうぞ。

# さ ろ ん

## 50年目の邂逅

伊藤 勢 亀

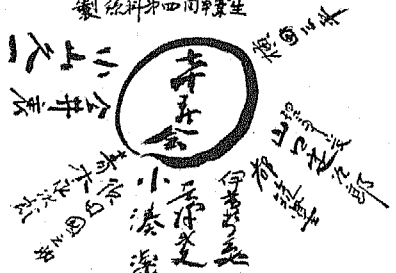
上田薬専専門学校第4回製糸科卒業生の中、生き残っている者11名が、一度顔合せをして見様ではないかと京都に住んでいる小湊君の廻章を見て、全員大賛成とあって、話とはんとんと進み、期日、場所、目的等を次の如く申し合せた

期日 昭和40年5月11・12  
場所 別所温泉 花屋ホテル  
目的 50年の旧情を温め、物故した同級諸君の慰霊祭を行い、冥福を祈る

私は10日の午後3時頃、花屋ホテルに到着した処、須田君はすでに奥様御同伴で、9日に来て1泊されていた。

夕方になった処、小山、今井、小湊、吉沢、青木永次郎の諸君が、続々と到着された。地元松代の横田三平君は、上田

昭和40年5月12日  
母校千曲会館において  
製糸科第四回卒業生



に来ていますが私用の為、明朝参上する。上田の都筑賢吉君は、聊か健康を害している為、明日の慰霊祭には是非参加したい、との連絡があった。

10日の晩は早速初会合を開いたわけだが、50年振りの再会の君もあったので、お互に頭が白くなったり、禿げたりしているの、よくこんなに歳をとったものだ、と、笑いあった様次第で、最初は誰だっけなあと、考え込む場面もあったが目をみると昔の学生時代の顔が、浮び上ってくるものである。人間の顔のうち目だけは決して変わるものでないことが、つくづく解った。

集合した名簿を照し合せて見ると

氏 名	現 住 所
小湊 潔	京都市
吉沢 武夫	下伊那郡木村
横田 三平	松代町
都筑 賢吉	上田市
須田 國之助	日立市
伊藤 勢亀	一関市
小山 久一	東京都
青木永次郎	桐生市
今井 稟	村上市

以上9名で、鈴木孫市君、山口正明君の兩名の不参加は、誠に残念であった。鈴木君は約20年以前に、胃を手術された

管で、或はお身体が弱っていられるのではないかと推察される。山口君は流冒の結果身体に余病を併発されたため、出席出来なかった様であったが、其後驚くべき達筆で、近況を報告されて居る。元気をとり戻していることは何よりである。

11日は北向観音様の常楽寺で、物故者の慰霊祭を行い、左記諸君の御冥福を祈る。

### 記

森田 三郎 松尾 順策 森山 二郎  
小坂田 亮 井筒盾太郎 非谷 信一  
橋本 景吉 久保田一徳 大島 秀  
小笠原振一 菅井辰三郎 横田 節樹  
武藤 俊治 池田 泰男 鈴木鉄次郎  
森 国彦 長見 公祐 父母 仙蔵  
後藤 栄 三輪 愷 宮田 清義

夕方は郷土の先輩倉沢美徳さんの御臨席を願って、昔母校の先生をして居られた時、地方の千曲会支部総会に出席していただいた事など話されて、時の過ぎるのも知らずに話しこんだ。やがて約束の別所自慢の美形2人の咽喉に合った仕舞、浅間の馬子歌、川中島の小歌、伊那節、木曾節等々、最後に校歌の合唱となり、旅館の女中の迷惑ならぬ様にと床につく事にした。

12日は一同打揃って、母校を訪問した幸い前理事長荻原清治、現理事長山口定次郎両先生など数人の出迎いを受けて、母校の外郭を御案内していただいたが、昔の偉を忍ばれるのは、道場と修己寮位のものであったろうか。驚いた事は樺(けやき)が数本亭々と聳え立っており、まことに偉観であった。嘗つて針塚校長が桜並木を作り、スウェーデン式に林間学校にするんだ、と申されていたが、其の桜は枯れて殆んど残っていないのはいささか淋しかった。小泉学部長さんは上京中で御日にかかれなかったのは残念であったが、中食には千曲会館に招かれて、名物信州策蕎麦を御馳走になったり、寄せがきを残した事は何よりのよい思出でとなった。

最後に吾等健在者中小湊君は、京都で理研化学工業株式会社取締役社長と云う肩書をもたれている唯一人の成功者であり、財政面でも恵まれている関係上今回の会合の宴会費一切を負担していただいた事は感謝に絶えない。昔針塚校長から私が直接承った事だが、先生の同級会を東京で催された時「今夜の宴会費は鈴木梅太郎博士に負担して貰うのさ。彼は金持だからね」と語されたが、私等同級生も小湊君の様な友人を持った事は、非常に光栄であり、名譽でもあり、自慢でもあるので、ここに一同を代表して深く感謝する次第である。

以上拙文を綴って報告とする。  
(筆者 岩手県一関市議会議員)

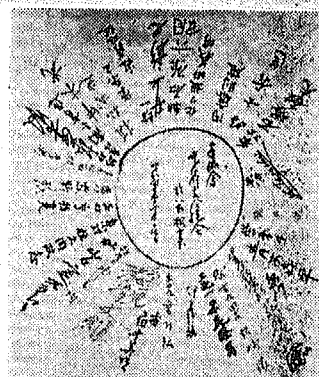
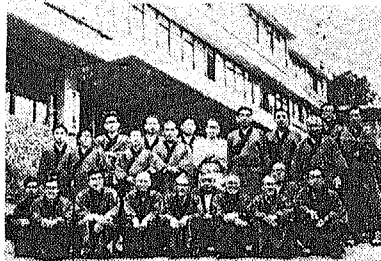
# 支 会 だ よ り

## 神 奈 川 支 会 総 会

例年のない異常天候と云われ乍ら、既に桜の花も散り始めた4月17日、箱根宮ノ下温泉保養所に於て、神奈川支会総会を開催した。

本部より山口新理事長、白井理事両氏が御出席下さるとの御連絡あり、幹事一同早目にと出掛けた処が、御二方共既に御到着済み、誠に汗顔の至りであった。

当支会独特の如何にも和やかな雰囲気は、又格別のものがあるが、糸1回伊藤大先輩より学識化12回赤尾君迄、はせ参ずる者27名(34名出席の処急用の為7名欠席)ゆっくりと新緑と、温泉を賞でて



後5時より恒例の総会となった。経過報告、収支報告、会費値上げの件議決、続いて山口先生より、千曲会及び母校の近況報告があり、6時より宴会となった。飲物は充分あり、飲み程に酔う程に、其処は同窓の気安さ、大いに飲み、語り、静かな山の出湯の大宴会は、何時果るとも知らずと云う処であった。

兎に角校歌歌唱で、しめくくりをつければ麻雀組、幹事室で両先生を囲んでの二次会組、或は湯治組等々、一番殿りは2時半頃就寝とか。

翌朝……朝もやの中からもれる、美しいカッコウ、ウグイスの声に起されて、朝の散歩に眺める、美しい箱根の景観。朝食、記念撮影も済ませた後は、再会を約する者、或は箱根を廻る者、何か寂しい様な気持の交錯を感じつつ、両先生を御送り申し上げた。

### 福島支会総会開催

支会長に原田種亀氏を再選す

昭和39年度千曲会福島支会は昭和40年4月17日午後3時より福島市恵比須旅館にて開催し、本会から遠藤先生が御多忙中にも不拘遠路御来会戴き盛會に催うされました。この日は東北地方としては稀れの暖かさでした。然し会員の参集は遺憾乍らあまり良い方とは思えずお互い一抹の淋しささえ感ずる程でした。総会は原田支会長の挨拶並に報告から始まり、

1. 当福島支会の会費納入状況は良好。
2. 母校火災資金納入状況は会員それぞれの申込額は完納している。
3. 上田繊維科学振興会研究助成は40年度は締め切られたが毎年3月末迄に申請書を出され度。



4. 会員名簿は福島支会扱い28冊直接申込3冊合計31冊購入されました。尚を残部が少し在る故申込みされ度い、(400円)

また遠藤先生からは本会の活動状況並に教養部統合問題、上田地方の開発模様等詳細報告があり会員一同大変なつかしく思いました。

ついで議案に移り

1. 昭和39年度の収支決算の承認
2. 役員改選について下記の諸氏が選任されました。

支会長 原田種亀  
 副支会長 蛭田修三 叶沢 弘  
 常任幹事 角替越夫 藤森朋夫  
 長尾泰次

方部幹事 伊達方部 池田三之助 郡山  
 方部 瀬在製袋一  
 平方部 大泉英明 県南方部  
 中山威四郎 会津方部 塩籠  
 相双方部 田原盛行  
 福島市安達方部 常任幹事兼任

3. 千曲会代議員選任に付て、下記の兩名が選任されました。  
 安部和 三瓶常四郎

### 協議事項

1. 会員の動静と会費の納入に付て、竹内前幹事が詳細説明し下記の通り決定しました。  
 イ. 各方部幹事は会員と連絡を密にし会費の納入を完全化する。  
 ロ. 会員の動静・転居等を支会に報告する事。
2. 昭和40年度総会開催に付て 郡山市とし、開催月日を例年より早日にし多数参加出来る方策を講ずる。以上にてあと懇親会にうつる。

福島支会の事務扱場所  
 福島市置賜町4-27  
 角替越夫

### 鹿児島支会だより

昨39年度内に開催する計画も色々な都合で機会を失し誠に申訳ないことでした先輩宇都宮さんから鹿児島市でやったらとの進言もあり辻、日高両兄のきもいりで去る5月8日 桜島を眼下に見下し大隅薩摩半島の連山を一望に納める城山公園内和風庭園にて開催しました。木脇、安田、入佐、守屋、岩崎の各氏はやむない都合で欠席、酒匂、小出、高須の三氏は不明欠席で残念でした。当日は上曜の午後でもあり天気にも恵まれましたが飛石連休などで通知がくれ会員各位に御迷惑かけたかと思いますが出席者11名、今回は岸本小門の両氏を新会員に迎へ誠に力強くうれしいことでした。

簡単な会計報告後是までの会費 300円が昭和40年度分から 500円になることや本日の会費の事など報告承認を受け。次に支会長が余り長過ぎ又老齢のこともあり此の際支会の刷新の為にも是非代って頂きたい旨囑りましたが、新に副支会長と幹事を置くことを条件に支会長はそのままと言う事になり仕方なく引請けました。

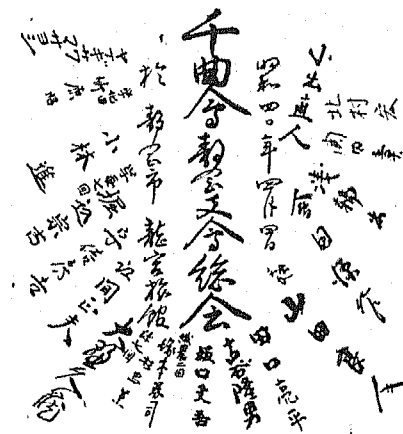
支会長 中山吉二 副支会長 辻義男  
 幹事 日高篤

その後欲談に入りましたが鈴木、土生、見玉さん等のビールの寄贈もあって楽しく呑み、食い辻、日高両兄のサービスよろしく久振り実に楽しい半日を過しました。当日出席者11名の近況を簡単に附記します。

- 宇都宮休一(蚕6) 高山町森林組合長 組合員の信望厚く二期動続中
- 鈴木 茂(蚕22) 片倉鹿児島蚕種製造所長 鹿児島在勤長く片倉は勿論県内蚕糸業者の信任篤い。
- 土生碧二(蚕22) 片倉末吉製糸工場と宮之城製糸工場とを兼任一人二役の重責を負い活躍中
- 辻 義男(蚕24) 県庁農産蚕糸課に在

- り県蚕糸業の最高指導者
  - 日高 篤(蚕34) 県庁農産蚕糸課の製糸指導の第一線に在る
  - 牧宮寿雄(蚕32) 県産検定所主任として活躍中今回同期の岩本見三(蚕37)である。
  - 岸本礼一(紡24) 本年4月移動で産産省神戸繊維製品検査所鹿児島出張所長に榮転され牧宮氏とは同期で親交厚かった山。
  - 兄玉新一(蚕24) 繊維雜貨商を鹿児島市に経営大成功し高家庭的にも恵れた幸運児。
  - 岩切作次(蚕22) 製糸会社は実兄に譲り製粉会社を経営日々張り切り活躍中
  - 小門勝美(別選7) 知覧町農業会の蚕糸業指導技師として活躍中。
  - 中山吉二(蚕12) 九州大学農学部指留試験地を管理している。
- かくて6時和気霽々の中に母校及び千曲会の発展を祈りつつ皆さんと別れを惜しみながら散会しました。(中山生)

### 静岡支会総会開催



4月4日静岡支会総会は静岡市竜宮別館において開催された。本部から田口先生、会田先生が出席され盛大であった。出席会員の元気な寄せ書が寄せられた。

#### 会員名簿ご入用の 会員は至急御申込下さい

昨秋発行の会員名簿は会員各位のご支援によって良結果に処理出来るようになりました。但今保管残部は416部です。ご入用の方は頒布価格400円(送料等100円を含む)を添え至急お申込下さい。  
 印刷発行部数2,000部、内売却入金済1,140部、代金未納126部、関係大学協賛広告会社等寄贈318部、残部416部。

千曲会動静部

# 本 会 記 事

## 理 事 会 開 催

6月6日午後2時から千曲会館において理事会開催

報告事項は①昭和39年度歳入歳出決算概況報告承認 ②信州大学教養部統合問題の経過について、協議事項は(1)役員旅費内規について改正 (2)事務連絡会の開催方法について原則として月1回開催のこと (3)千曲会厚生施設の利用については、利用料1人1日200円と前年と同じとすること、なお教養部統合問題については、熱烈な意見が開陳された、社会人(同窓と)として先を見透し母校の将来を思つての意見で大学の自主性は大学管理令のとおりだが本会は昨秋の決議のとおり教養部統合反対の態度で進む事を宮城博議長によって宣言された。

## 財団法人上田繊維科学振興会

### 評議員会開催

6月17日午後1時より第2会議室において評議員会が開催された。出席者は理事長柳沢延房、副理事長北条舒正、評議員山口定次郎、小林尚一、一志淑夫、長島榮一、坂口春三、後藤春雄、山崎寿の各氏及び委任状提出は小林三郎、土屋茂一郎、湯浅文雄、久間彦秀、宮城博の各氏で審議事項は(1)昭和40年度事業計画について、研究助成事業は5月末日をもって既に事業を実施した。学会、講演会、計画は繊維工業化学科新設満25周年特別講演会、および繊維学会、気象学会開催に補助、関係会社々長を招いて1回特別講演会開催を計画している。

②理事の任期満了に伴う改選は小泉清明山口定次郎、山口亮平、北条舒正、会田源作、小林尚一、小泉所、関博夫、飯島南海夫、笠原正巳、隅田隆太郎、村上尚水口米雄、香山清和の各氏14名が新に理事に選出された。

## 理 事 会 開 催

6月17日午後3時から千曲会館において理事会が開催された。出席者は山口理

事長、小林運美、母袋忠右衛門の両副理事長外理事、顧問、相談役27名出席協議事項は①信州大学一般教養課程の統合について経過報告、②評議員会開催については、一般教養課程統合問題については、さきに総会で教養統合反対の決議をしてあるのでその報告は臨時総会を開催すべきであると東京支会外10余支会から所望されているので定款によるが時間的に評議員の書面協議によって臨時総会開催の有無を決することになった。教養課程を松本に統合することに学部教員会議において決定した詳細経過報告が山口理事よりなされた。小林運美副理事長から、3月31日教員会議の票決によって教養部統合反対に票決されたのに再検討して再び票決した事は一事不再理の法則に反するもので全く大学の自治は不可解千万である。社会人として身近な同窓が学校のためを思う事がなぜわるいかと、かつて昭和24年衆議院の文部委員として上田の特殊性を認め繊維学部一般教養部をおく事に活躍した功績者だけに極めて熱心な意見が開陳された。

## 楓 荘 開 設 準 備 完 了

昨夏から開設した厚生施設楓荘は避暑シーズンも近寄って来たのでその準備のため町田理事、白井美明理事、三石理事並に事務局は6月24日楓荘へ行き開設準備を完了した。会員各位のご利用をお待ちいたします。

本夏からは近くに町費で雪窓湖が格好の大きさで完成又テニスコートや運動場も新設楓ヶ丘周辺は観光、避者地として一段とよさを増している。

## 千 曲 会 費 完 納 者

会費通算40回完納者は以後会費免除されることになっているが今回次の会員は40回完納された。本会向上発展のため多大のご協力いただいた事を感謝いたします。(敬称略)

- 佐藤良太郎 (蚕・2 静岡)
- 中島静太郎 (蚕5・兵 庫)
- 沖 壽治 (蚕2・兵 庫)

- 倉橋 琢而 (蚕10・兵 庫)
- 笠原 重亀 (蚕12・福 島)
- 井立喜三郎 (蚕13・兵 庫)
- 叶沢 純一 (蚕17・兵 庫)
- 桐原 達郎 (蚕18・鹿児島)
- 秋山武一郎 (蚕19・兵 庫)
- 桜井 隆夫 (紡4・上 小)

## 母 校 だ よ り

### 三 大 学 学 生 体 育 大 会 開 催

#### 当 学 部 総 合 優 勝

去る5月29日(土)30(日)31日(月)の3日間に亘り3大学体育大学(旧名、3繊維学生体育大会京都高蚕(京都工芸繊維大)東京高蚕(東京農工大)上田(蚕糸(信大繊維)を上田の地区、繊維学部主管のもとで開催された。回を重ねること今回で七回目である。26日頃から台風の雨降りが続いての為か信越線熊の平トンネル附近の土砂崩れのため列車運行不通的一幕もあり東京の選手勢の一部は中央線小海線小諸線由で上田着の番狂わせで競技日程に若干の変更をみた。試合結果は優勝 信州大繊維部部

- 2位 東京農工大
  - 3位 京都工芸繊維大
- 大会長小泉清明学部長からそれぞれ賞状と当学部には総合優勝杯の授与があり来年の当番校は京都工芸繊維大学と決まった。(今井厚生補導係長)

### 野 口 教 授 信 州 大 学 評 議 員 に 選 出 さ る

6月18日繊維学部教員会議において評議員の改選の選挙が行われ野口新太郎教授が当選した。なお繊維学部代表評議員は3名である。

### 佐 藤 春 大 郎 先 生 が 入 院

去る5月23日信州大学名誉教授佐藤先生には急性胃潰瘍を発病し直ちに上田病院に入院された。一時は全く生命も危ぶまれたが、奥さん、御親族の決断によって手術を断行した。(上田病院高令者新記録78才)当学部学生の献身的な輸血の協力もあつてその後経過も極めて順調に運びまもなく退院される由。

もと宮城県蚕業試験場長  
野口活也著 いま宮城県蚕業研修館講師  
(蚕13回卒)

# 養 蚕 の 新 技 術

養蚕の指導者、養蚕農家、養蚕婦人向

農山漁村文化協会

東京都港区赤坂青山北町4の74

¥250 ㊦40


為替のご用は

はやくて たしかな

富士をご利用下さい

千曲会へのご送金は、当店宛の振替貯金  
口座長野3523が一番ご便利です

上田市原町

皆様の  富士銀行上田支店

### 会 員 動 静

中島 信行 化 8 千 葉 積水スポンヂKK (住) 千葉県佐倉市臼井遠部台370の1セキスイ社宅

中村 春彦 化 9 山 陽 倉敷レイヨンKK 岡山工場岡山市福島倉レ北社宅23号

野村 忠義 化 9 東 京 国策パルプKK本社 (住) 東京都杉並区大宮前6の451

樋口 博文 学化1 愛 知 三共毛織KK (住) 愛知県中島郡祖父江町三共毛織社宅12の1

石橋 博 学化3 兵 庫 神戸大学工学部 (住) 神戸市東灘区本庄町西青木前田町14青木団地305

平林 秀人 学化3 千 葉 (住) 千葉県柏市豊四季31の303

斎藤 博彦 学化3 北 信 長野県飯山南高等学校 (長野県飯山市)

三石 昌 学化3 近 畿 大阪府吹田市津雲台2の2C-28-305

柳沢 重幸 学化7 東 京 日本ビニロンKK (住) 東京都北多摩郡小金井中町2の2217

平林 正実 学化7 近 畿 日本合成化学工業KK中央研究所 (住) 大阪府門真市上馬伏139

石田 保 学化8 近 畿 ダイキン工業KK化学営業部企画課 (住) 大阪府豊中市庄内東町5-44

穂田 竜雄 名化8 静 岡 日本ビニロンKK 藤枝險場 (藤枝市) (住) 藤枝市前島369の1

石川 敦子 学化12 近 畿 倉敷レイヨンKK (住) 吹田市垂水293静和苑

村井 俊男 学化12 神奈川 大和紡績KK (織維工業誠験所へ派遣)

大工原正明 学化12 埼 玉 片倉ヘッドソンKK大宮工場 (大宮市吉敷町) (住) 横浜市港北区篠原町2439三沼展郎

佐久間幸一 紡 10 三 重 呉羽コム工業KK取締役製造部長 (三重県津市)

鈴木 力 紡 12 山 陽 岡山県工業試験場津山織維雑賀指導所長 (津山市津山149)

一之瀬徳治 紡 21 静 岡 日清紡績KK浜松工場 (静岡県浜北市貴布祿1116)

荻原 博文 紡 27 山 陽 倉敷織維加工株式会社

海野 信 紡 28 富 山 通産省高岡織維製品検査所 (高岡市横田795) (住) 高岡市長江新富町

大東 隆夫 学紡7 栃 木 栃木県鹿沼高等学校 (住) 宇都宮市宿郷町222の3

小野沢勲夫 学紡9 岐 阜 ニチポーKK垂水工場 (岐阜県不破郡垂水町)

宮下 健 学紡10 近 畿 ニチポーKK高田工場 (奈良県大和高田市)

松下 勉 学紡13 三 丹 神楽生糸KK綾部工場 (住) 綾部市味方町鴨の堂24神楽味方寮

大田 晴彦 学紡13 近 畿 帝国産業KK具塚工場製造部 (住) 大阪府岸和田市南上町329帝国産業KK清泉寮

泉 勇次 学紡13 三 重 大東紡績KK鈴鹿工場 (住) 鈴鹿市白子町6755大東紡績鈴鹿寮

田中 重臣 学系2 愛 知 農林省東海農政局構造改善部振興第1課 (名古屋市中区南外堀町6の1)

特許・実用新案・意匠・商標

出願・訴訟・鑑定

## 浜 特 許 事 務 所

東京都港区新橋1の15の4  
堤 第一ビル 4階  
東京 (591) 0764・0765

弁 理 士 浜 香 三  
弁 護 士 中 猪 之 助  
千曲会員 福 島 鋼 治 郎

### 編 集 室 よ り

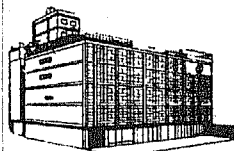
昨秋第25回定期総会において緊急動議として提案された、信州大学織維学部一般教養課程統合反対が決議された。本会は終始その姿勢で進んで来たが、最終的には大学の自治によって票決の結果、松本一ヶ所統合に決定した。賛否いづれが大学教育の成果大なるかは将来の歴史の判定にまたなければならぬが、今後学部の充実をいかにしていくべきか理想像をお寄せ下さるようお待ちいたします。

7月11日から3週間の予定で3学年各学科学生が学外研究実習に各地に参りますその節は宜しくご指導下さいませようお願いいたします。

編集委員 小林 尚一、竹田 寛、石川 博  
武井 隆三、松沢 秀二、金井 清、一之瀬国典  
小笠原真次、篠原 房江、白井 要範

## 信大教科書 自然科学書

工学書協会特約店  
株式会社 西沢書店  
上田原町 TEL 0024



皆様の百貨店

上田・中央

